

## 平成16年（暦年）入込観光客「推計」調査の概要

### （1）調査の目的

この調査は、本県の観光地に来遊する観光客を調査（推計）し、今後の観光行政施策等に役立てることを目的とする。

### （2）調査方法

県内全市町村からの報告に基づいて集計した。

### （3）調査の要領

#### ア 調査の範囲

県内全市町村（各市町村単位）

#### イ 調査の期間

平成16年1月1日から平成16年12月31日まで1年間

#### ウ 調査事項

##### （ア）観光客の目的別の入込客数

ハイキング及び登山、花見及び紅葉狩り、釣り、寺社参詣及び文化財・天然記念物見学、遊園地、各種行事・まつり見学、スポーツ（観覧客、ゴルフ、テニスなど。）、産業観光（観光農業を含む。）、その他（ドライブ、ボート遊

##### （イ）県内・県外別（日帰り・宿泊）の入込客数

##### （ウ）利用交通機関別の入込客数

##### （エ）消費金額

### （4）調査結果

#### ア 観光客入込の動向

平成16年1月1日から平成16年12月31日までの入込客数は、1億704万人と推計され、前年の1億32万人と比べて、672万人増加し、率では6.7%の増加となった。

目的別では、各種行事まつり見学客が前年より359万人増加し、8年連続で1位となった。前年と同じく2位のスポーツ客は、393万人増加した。3位の遊園地客は前年より77万人減少した。なお、ハイキング及び登山客、産業観光客は前年に比べて増加となったが、花見客及び紅葉狩り客、釣り客、寺社参詣及び文化財・天然記念物見学客は減少した。

#### イ 県内・県外別の状況

県内客7,050万人（構成比65.8%）、県外客2,041万人（構成比19.1%）、不明1,613万人（構成比15.1%）であった。

#### ウ 日帰り・宿泊の状況

日帰り客 8, 877 万人（構成比 82. 9%）、宿泊客 214 万人（構成比 2. 0%）、不明 1, 613 万人（構成比 15. 1%）であった。

#### エ 地域別の特徴

（ア）前年と比べると、全体のうち半分以上の市町村で入込客数が増加した。

彩の国まごころ国体のメイン会場となった熊谷市や蔵造りのまちで有名な川越市などで大きく増加した。

（イ）秩父広域圏、児玉郡市広域圏、大里広域圏、比企広域圏、中央広域圏、西部第一広域圏、東部広域圏、利根広域圏は、前年に比べていずれも増加した。

（ウ）西部第二広域圏は前年に比べてやや減少した。主に寺社参詣及び文化財・天然記念物見学客、各種行事まつり見学客が減少した。

#### オ 利用交通機関別の状況

利用交通機関別で入込順位をみると、自家用車が圧倒的に多く 5, 145 万人、次いで鉄道 1, 863 万人、不明 1, 342 万人、その他 1, 326 万人、バス 1, 028 万人の順であった。

#### カ 目的別の状況

目的別の入込状況をみると、各種行事まつり見学客 2, 692 万人（構成比 25. 2%）、スポーツ客 2, 325 万人（構成比 21. 7%）、遊園地客 1, 458 万人（構成比 13. 6%）、産業観光客 1, 247 万人（構成比 11. 7%）、寺社参詣及び文化財・天然記念物見学客 1, 096 万人（構成比 10. 2%）、花見客及び紅葉狩り客 643 万人（構成比 6. 0%）、ハイキング及び登山客 331 万人（構成比 3. 1%）、釣り客 95 万人（構成比 0. 9%）、その他 817 万人（構成比 7. 6%）となった。

対前年比で増加したのは、スポーツ客（393 万人、20. 3%増）、各種行事まつり見学客（359 万人、15. 4%増）、産業観光客（165 万人、15. 2%増）、ハイキング及び登山客（45 万人、15. 7%増）で、減少したのは、その他（142 万人、14. 8%減）、遊園地客（77 万人、5. 0%減）、寺社参詣及び文化財・天然記念物見学客（35 万人、3. 1%減）、花見客及び紅葉狩り客（32 万人、4. 7%減）、釣り客（4 万人、4. 0%減）となっている。

#### キ 消費金額の状況

消費金額の総計は 1, 245 億円（66市町村）である。1人当たりの消費金額は 1, 740 円で、前年に比べ 135 円、8. 4%の増となった。

#### ク 月別の状況

観光客数については、8月、10月、7月、11月の順に多い。また、消費金額については 10月、5月、8月、11月の順に多い。